

大阪城

2024

2/1

(木)

14423
号

全港
西成分会

264
6647-
4947

石川県不能登半島の地雨震で如もまた
新年もはや一ヶ月が過ぎた。死者は38人
で、65歳以上の高齢者が7割以上という。
国全体におしよせる高齢者の波、過疎の
地方は、後継者、交通、産業など大変で
国の地方政策が大きく問題になるだろう。
昨日は、岸田政権の政治の方針を發表し
たが、強力な実行力のエネルギーは感じられ
ない。税金と国債で集めた12兆7000億円の金を
どう分配、使うかの政治ではあるが、社会と国
が進む方向と生きぬいていく方法をまわって、
論議させていない。没落しつつあるアメリカ
との日米一体化、だけが言っている、岸田
政治である。米国の敵は米国だといわれて、
内戦の危険さえはらわす。1/5大統領選挙の
前後は大混乱が、今から予想されて、1/5
に向けての色々な対応策が考えられ、準備
に入っているようだ。岸田政権は、解散、総選
挙をへおにして、自民党内の再編が進行してい
るが、経済も政治も、安倍以降の現実の中に
ある。安倍の死によって、安倍的なものは消えつつある。

2月になります。寒さの底はもうすこし。

復旧進まず、能登半島地震1カ月

石川県の馳浩知事は30日、能登半島地震で液状化の被害が出た同県内灘町とかほく市を視察し、地面に沈んだ車や傾いた住宅などを確認、実態調査を急ぐ意向を示した。2月1日で発生から1カ月となるが、甚大な被害の出た奥能登以外の地域でも広範囲で復旧が進んでいない状況が浮き彫りとなった。

地盤が沈み、土砂が堆積した内灘町の住宅。同町は液状化被害が特に大きいとされており、馳知事は地面の割れ目をのぞき込んだり、担当者に状況を聞いたりして見て回った。視察後、馳知事は取材に応じ「液状化によって上下水道、配管がずたずたになっているという報告をもらっている。綿密な調査が必要だ」と述べた。共同通信1/30

仲間のみなさん。寒さの中ご苦勞様です。時の流れは早く、年が明けて1カ月です。求人状況は相変わらず低調で早朝の労働者の姿もまばらで寄り場も閑散状態。

北陸能登の大震災。復旧の緊急性に対応することがなかなか追いつかないようです。一方大阪万博。本当にせっぱつまってきましました。前回の70年万博のおりには求人車・労働者であふれかえっていたことを思うと隔世の感があります。